



日本を代表するイラストレーター、グラフィックデザイナーとして活躍し続ける<sup>うのあきら</sup>宇野亜喜良（1934-）。1960年代の日本において、「イラストレーション」「イラストレーター」という言葉を広め、時代を牽引してきたレジェンドでありながら、常に進化し続けています。その創作は、イラストレーション、ポスター、絵本、書籍、アニメーション映画、絵画、舞台美術など多岐におよび、1950年代初めのデビュー以来、活動の範囲は限りなく広がっています。本展は、宇野亜喜良の初期から最新作までの全仕事を網羅する、過去最大規模の展覧会です。1950年代の企業広告をはじめ、1960年代のアングラ演劇ポスターや絵本・児童書、近年の俳句と少女をテーマとした絵画など、多彩で貴重な原画や資料などを紹介します。“魅惑のサウスポー”から生み出される、時代を超越した宇野亜喜良の華麗で耽美な創作世界に迫ります。

## 開催概要

- 会期** 2025年9月27日（土曜日）から 11月9日（日曜日）まで ※会期中無休
- 会場** 秋田市立千秋美術館 秋田県秋田市中通二丁目3-8（アトリオン）
- 開館** 午前10時から午後6時まで（最終入館は午後5時30分）
- 主催** 宇野亜喜良展実行委員会（秋田市立千秋美術館、AAB 秋田朝日放送）、朝日新聞社
- 後援** 秋田魁新報社、ABS 秋田放送、AKT 秋田テレビ、エフエム秋田、CNA 秋田ケーブルテレビ
- 特別協力** 刈谷市美術館
- 観覧料** 一般 1,300円（1,100円） 大学生 800円（640円） 高校生以下無料
- ※（ ）内は20名以上の団体、前売、障がい者割引および秋田県立美術館との相互割引料金
- 前売券販売所** 秋田市立千秋美術館、さきがけニュースカフェ、ローソンチケット（Lコード：22566）

本展覧会に関するお問い合わせ

秋田市立千秋美術館

【展覧会担当】村田、菅沼

Tel：018-836-7860

E-mail：ro-edss@city.akita.lg.jp

## 本展のみどころ

### 宇野亞喜良の初期から最新作までの全仕事を過去最大規模のスケールで紹介

宇野亞喜良の大規模な個展は、2010年に刈谷市美術館で開催されて以来、14年ぶりの開催となります。本展では、約850点の圧倒的な作品群で宇野作品の魅力をご堪能いただきます。

## 展覧会構成と主な出品作品

宇野のこれまでの仕事を12のトピックでジャンルごとに展示します。

### 1 プロローグ 名古屋時代

名古屋での学生時代に描いたスケッチやクロッキーなど、初期の作品を紹介します。宇野は、19歳でグラフィックデザイナーの登竜門だった日本宣伝美術会（日宣美）で入選を果たし、1955年に上京。注目すべきデザイナーとして早くも才能を開花させていました。

### 2 グラフィックデザイナー 宇野亞喜良

上京後、宇野は1956年から1959年までカルピス食品工業に在籍し、その後もグラフィックデザイナーとして活躍します。宇野が手がけた新聞広告やパッケージデザインなどの貴重な原画を紹介します。

「カルピス」（カルピス食品工業）広告原画 1956年頃 刈谷市美術館蔵

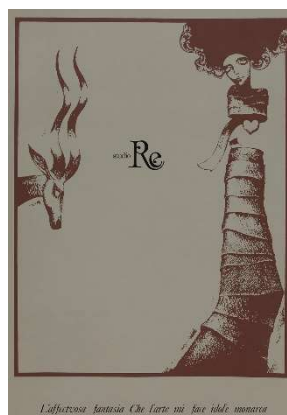


### 3 企業広告

1960年に入社した日本デザインセンターでは、東芝やトヨタ自動車などの企業広告を担当。1965年にはスタジオ Re を立ち上げ、写真とイラストレーションを融合させた広告を制作しました。なかでも化粧品会社マックスファクターのシリーズは格調高い幻想的なイメージをよく伝え、高く評価されました。

左：「スタジオ Re」ポスター 1965年

右：「Renaissance Collection（マックスファクター）」ポスター  
1965年頃 刈谷市美術館蔵



### 4 アニメーション映画

1960年代、宇野は『白い祭』、『お前とわたし』、『午砲（ドン）』という短編アニメーション映画を発表しています。本展では、それら3本をすべて上映します。

## 5 ポスター

宇野は豊富な印刷の知識と描写力を存分に発揮したポスターを膨大に手がけています。独特のファンタジーやエレガンス、エロティシズムが漂う宇野らしい世界観が感じられるポスターを一挙に展示します。

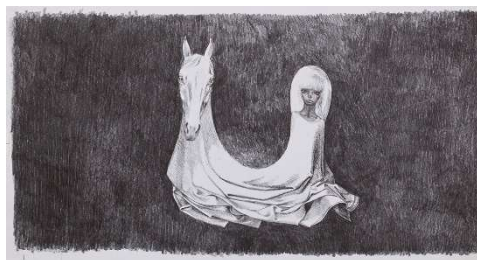
左：「ミケランジェロの言葉」ポスター 1968 年  
右：「三井信託銀行」ポスター 1971 年



## 6 絵本・児童書

1957 年にエンゼル社から発行された『いぬ えとおはなし』に数点の絵を描いたのを皮切りに、宇野は、現在までに 70 冊余りの絵本を手がけ、あわせて多くの児童書にも携わってきました。物語や著作によって自由自在に画法を変える宇野の絵本世界は、巧みな造形力が魅力です。

『あのこ』原画 1966 年 著：今江祥智、理論社



## 7 版画集・作品集

1970 年代から 1980 年代にかけて宇野はこれまでの表現スタイルを見直すため、1974 年に初の作品集『イラストレーション・ナウ 宇野亜喜良の世界』、1982 年には『宇野亜喜良 マスカレード』を刊行しました。その一方で新スタイルの裸婦像や少年像も手がけています。

## 8 新聞・雑誌

宇野は新聞や雑誌の仕事に最も長く携っており、膨大な数が存在します。記事の内容、著者の嗜好、印刷の仕様などにも目配りし、作風や画材を使い分ける柔軟性によって、エロスからメルヘンまで表現の振りが広いイラストレーションをつくり出しています。



『母の友』（1964 年 9 月号）表紙原画  
1964 年 刈谷市美術館蔵

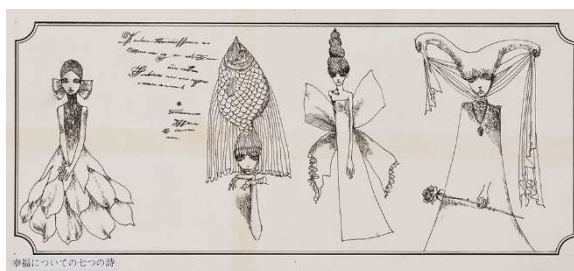


「活路」『週刊現代』（1994 年 7 月 30 日号）原画  
1994 年 刈谷市美術館蔵  
著：北方謙三、第 36 巻第 28 号、講談社

## 9 書籍

1960 年代から現在にいたるまで、宇野は書籍の装幀も数多く手掛けています。書籍の仕事はイラストレーションに加えて、造本のおもしろさを体感できる表現領域であり、本という存在を好む宇野にとっては、飽くことなく創作意欲がかき立てられる場といえます。

「幸福についての七つの詩」『ひとりぼっちのあなたに（For Ladies）』原画  
1965 年 刈谷市美術館蔵 著：寺山修司、新書館



## 10 絵画・立体作品

1987年の個展を機に展示空間をつくるおもしろさを実感した宇野は、以後毎回テーマを決めて個展を開催しています。モチーフやスタイルに制約がなく、自分ですべて決められる自由さが醍醐味であると語っています。

《餃子姫》 2013年



## 11 舞台美術

宇野は、舞台装置や衣装、メイク、演出や脚本に至るまで、演劇全体の総合的なプロデュースも行っています。特に1990年代から2010年代頃まで、集中的に演劇舞台に携わりました。宇野が手がける舞台美術は、二次元の平面で見ていた宇野の世界がそのまま空間にあらわれるかのような魅力を放っています。

「Project Nyx 第4回公演 星の王子さま」舞台原画 2009年



## 12 近作・新作

俳句に親しみ「左亭」の俳号を持つ宇野は、近年松尾芭蕉や寺山修司が詠んだ句をテーマとした新作を描いています。また、BUCK-TICK（バクチック）、椎名林檎、資生堂「マジョリカ マジョルカ」など、さまざまなクリエイターや企業とのコラボレーションにより、幅広い世代から支持を得ています。

※本リリース内の作品画像はすべて ©AQUIRAX

## 関連事業

### 講演会「宇野亜喜良展—その魅力をめぐって」

日時 9月27日（土曜日）午後2時から3時30分まで  
講師 松本育子氏（刈谷市美術館館長代理、本展監修者）  
会場 千秋美術館3階講堂  
対象 一般（定員70名、聴講無料）  
申込 千秋美術館にて電話で受付

### 学芸員による見どころスライドレクチャー

日時 10月11日（土曜日）、10月25日（土曜日）各日午後2時より30分程度  
担当 千秋美術館学芸員  
会場 千秋美術館3階講堂（事前申込不要、観覧券チケットが必要）

本展覧会に関するお問い合わせ

秋田市立千秋美術館 【展覧会担当】村田、菅沼 Tel：018-836-7860

E-mail：ro-edss@city.akita.lg.jp

## 作家略歴

## 宇野亞喜良 うの・あきら

1934 年愛知県名古屋市生まれ。名古屋市立工芸高等学校図案科卒業。  
1955 年上京。カルピス食品工業、日本デザインセンター、スタジオ・イル  
フィル、スタジオ Re を経てフリーランス。1950 年代から企業広告や演劇ポ  
スター、絵本を手がけるようになり、鬼才のイラストレーターとして活動を  
開始。1960 年代末には演劇実験室・天井桟敷などのアングラ演劇ポスター  
や舞台美術を担当するなど、一躍時代の寵児として脚光を浴びる。1990 年  
代からは展覧会のキュレーションや舞台の美術監督を務め、近年は俳句との  
コラボレーション作を発表するなど、現在も多彩な分野で活躍。

主な著作に、『宇野亞喜良マスカレード』(美術出版社、1982 年)、  
『薔薇の記憶』(東京書籍、2000 年)、『奥の横道』(幻戯書房、2009 年)、  
『宇野亞喜良クロニクル』(グラフィック社、2014 年)。

絵本に『あのこ』(文・今江祥智、理論社、1966 年)、『ぼくはへいたろう』(文・小沢正、福音館書店、1994 年)、『マイマイとナイナイ』(文・皆川博子、岩崎書店、2011 年) などがある。刈谷市美術館、Bunkamura ギャラリー、ギンザ・グラフィック・ギャラリーほか、個展多数。

1956 年日宣美展特選、1960 年日宣美展会員賞、1982 年講談社出版文化さしえ賞、1989 年サンリオ美術賞、1992 年赤い鳥さし絵賞、2008 年日本絵本賞、2013 年全広連日本宣伝賞山名賞、2015 年読売演劇大賞選考委員特別賞等を受賞。

1999 年紫綬褒章、2010 年旭日小綬章受章。



Photo : 大童鉄平